

アンケート調査報告書

【中学校】

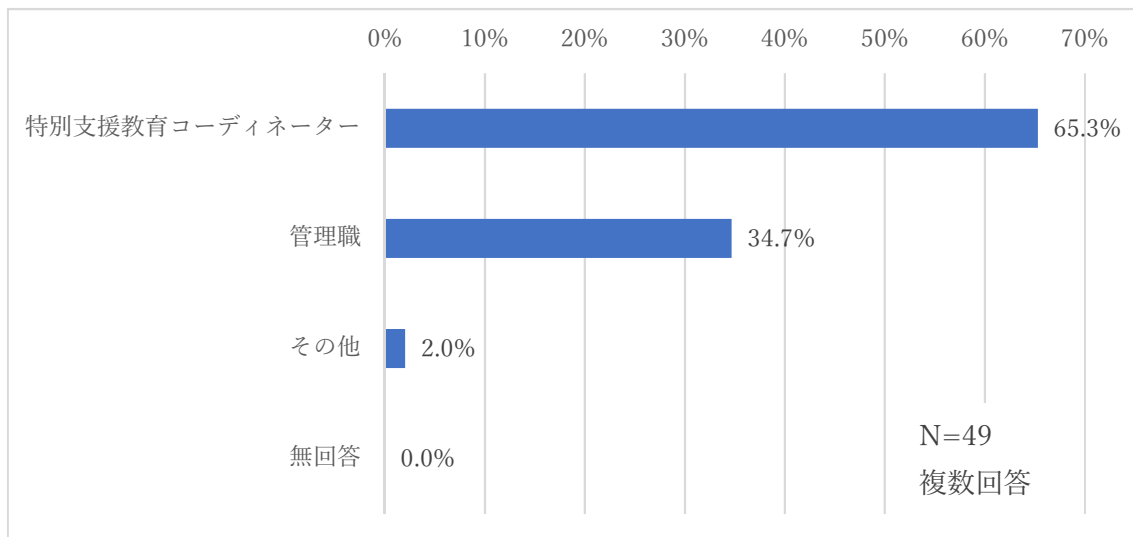
【A 貴校及び調査票ご記入者についてお聞きします】

問1 貴校の学校種別について、お答えください。

中学校、49校から回答があった。

問2-1 本調査票を記入されている方ご自身の職種について、お答えください。

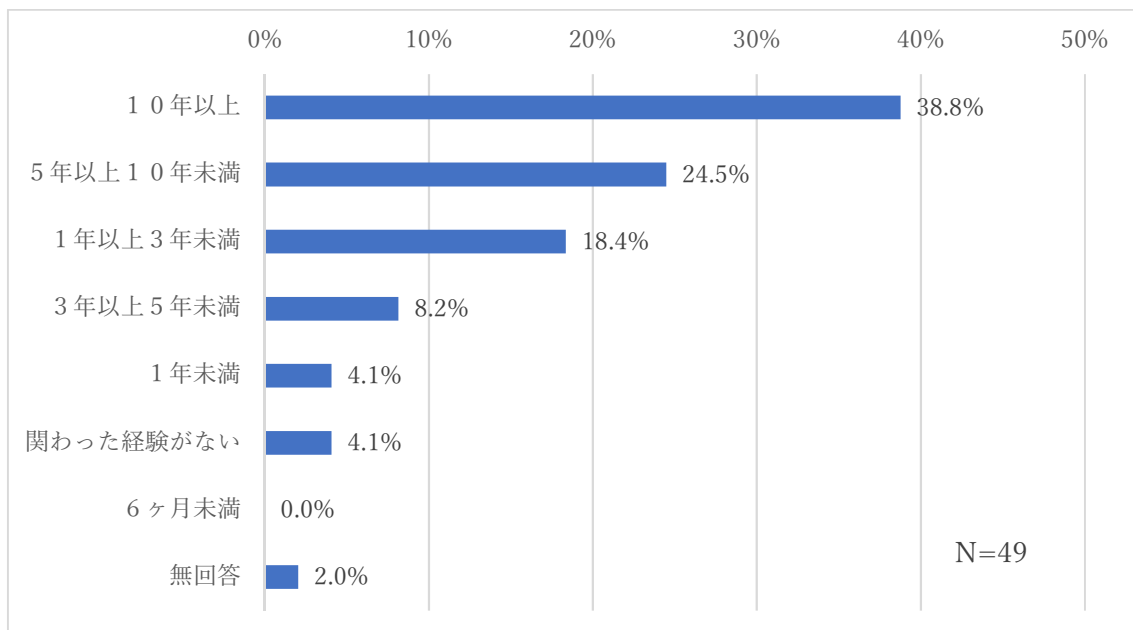
職種は、「管理職」(34.7%)、「特別支援教育コーディネーター」(65.3%)となっている。



(その他) 特別支援(知的障害)学級担任

問2-2 本調査票を記入されている方ご自身の発達障害児者の支援に関わった経験年数について、お答えください。

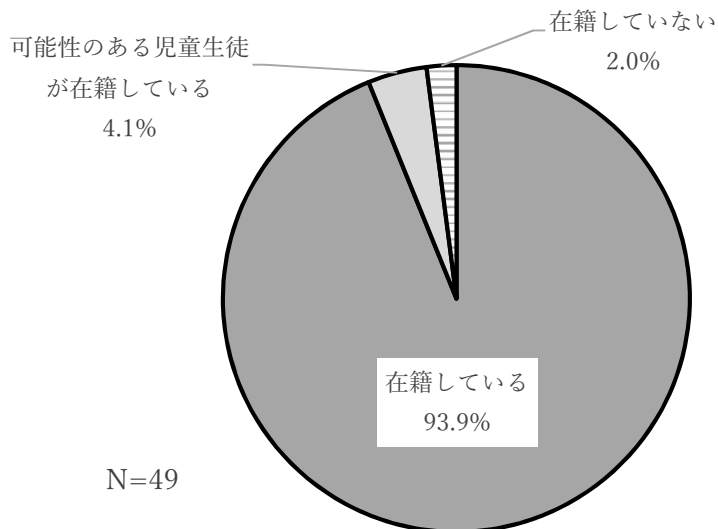
発達障害児者の支援に関わった経験年数は、「10年以上」(38.8%)が最も多く、次いで「5年以上10年未満」(24.5%)、「1年以上3年未満」(18.4%)となっている。



【B 発達障害児者への支援について伺います】

問3 貴校には、発達障害もしくはその可能性のある児童生徒が在籍していますか。

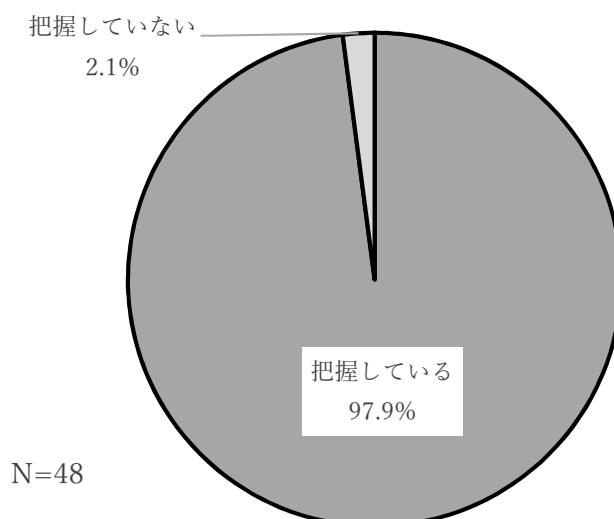
発達障害もしくはその可能性のある児童生徒が在籍しているかについては、「在籍している」(93.9%)、「可能性のある児童生徒が在籍している」(4.1%)、「在籍していない」(2.0%)となっている。



【C 日常生活を支える「基本の手立て」について伺います (その① 特性の理解)】

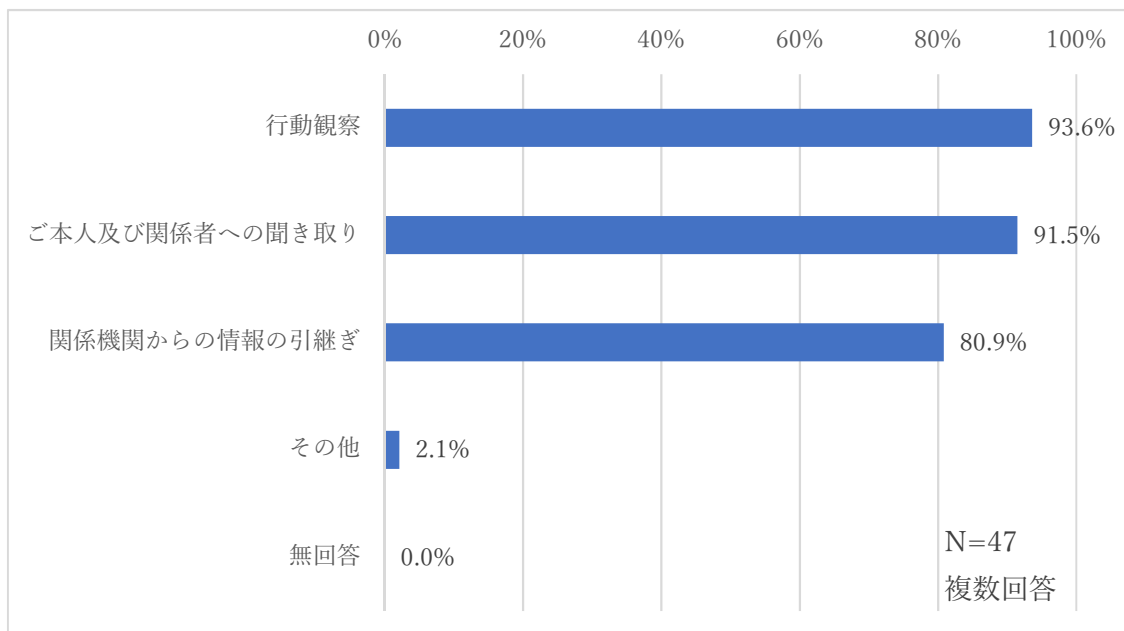
問4 貴校では、発達障害もしくはその可能性のある児童生徒について「感じ方(感覚)」や「周りのことへの理解の仕方」「自分の気持ちの表し方」など(以下「障害特性」と記載)にどのような特性があるか、専門職の人(医師、発達障害に関する専門機関の職員等)などが調べた結果を把握していますか。

専門職の人が調べた結果を把握しているかについては、「把握している」(97.9%)、「把握していない」(2.1%)となっている。



副問4-1 問4で「把握している」と答えた方におたずねします。どのように障害特性を把握していますか。当てはまるものをすべて選んでください。

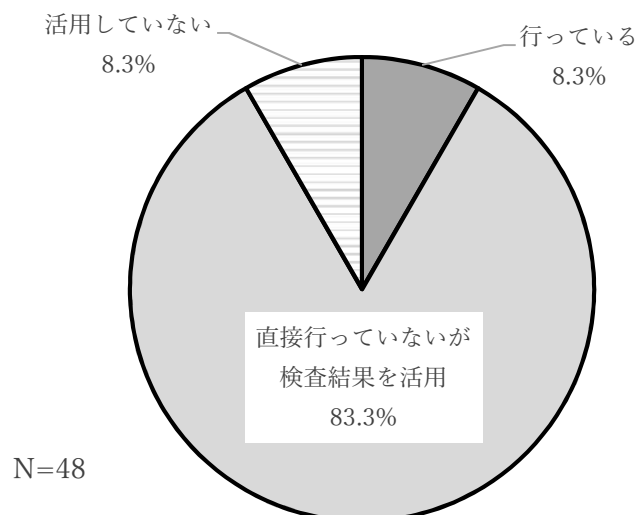
どのように障害特性を把握しているかについては、「行動観察」(93.6%)が最も多く、次いで「ご本人及び関係者への聞き取り」(91.5%)、「関係機関からの情報の引継ぎ」(80.9%)となっている。



(その他) 小学校との情報の引継ぎ

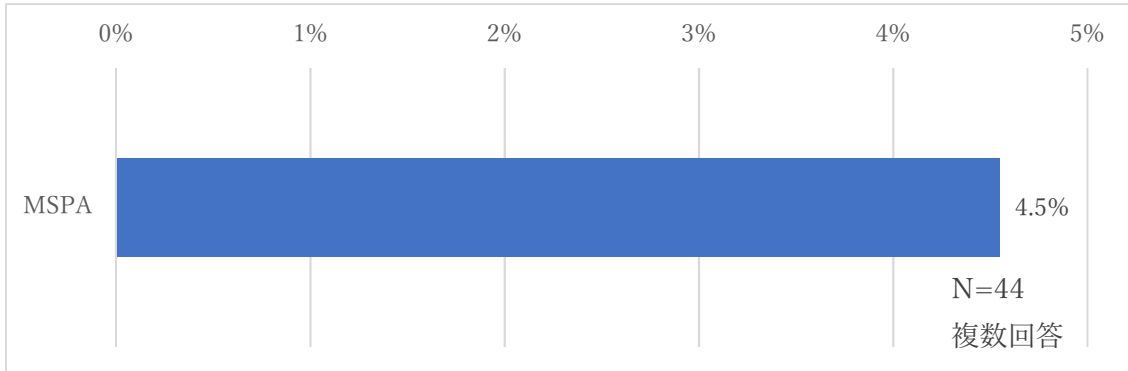
問5 貴校では、発達障害もしくはその可能性のある児童生徒について心理学的な検査を行い、支援に活用していますか。

心理学的な検査を行い、支援に活用しているかについては、「行っている」(8.3%)、「直接行っていないが検査結果を活用している」(83.3%)、「活用していない」(8.3%)となっている。

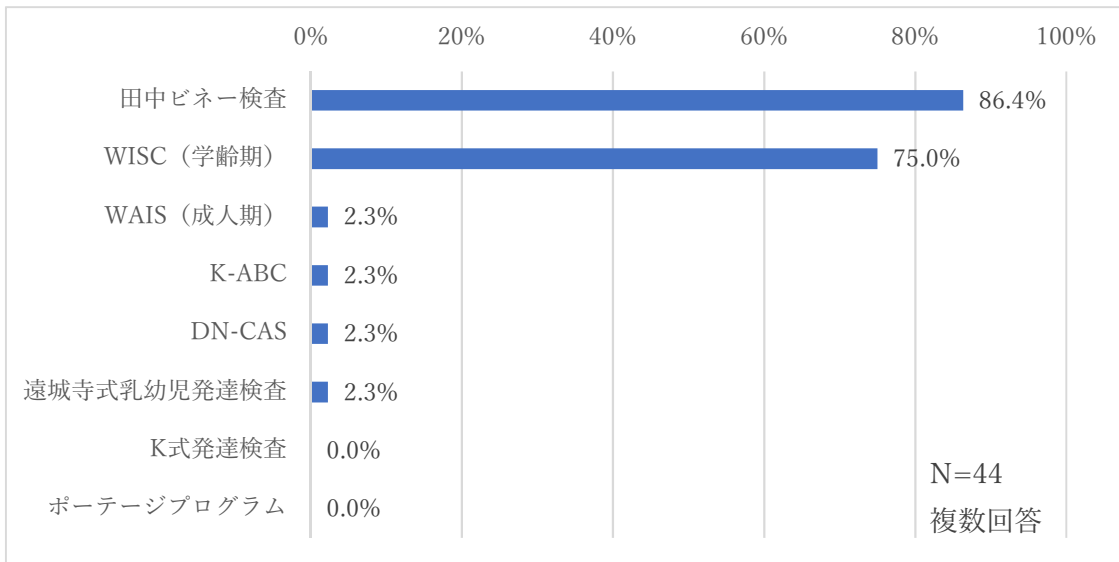


副問5-1 問5で「行っている」「直接行っていないが検査結果を活用している」と答えた方におたずねします。どのような検査を活用していますか。当てはまるものをすべて選んでください。

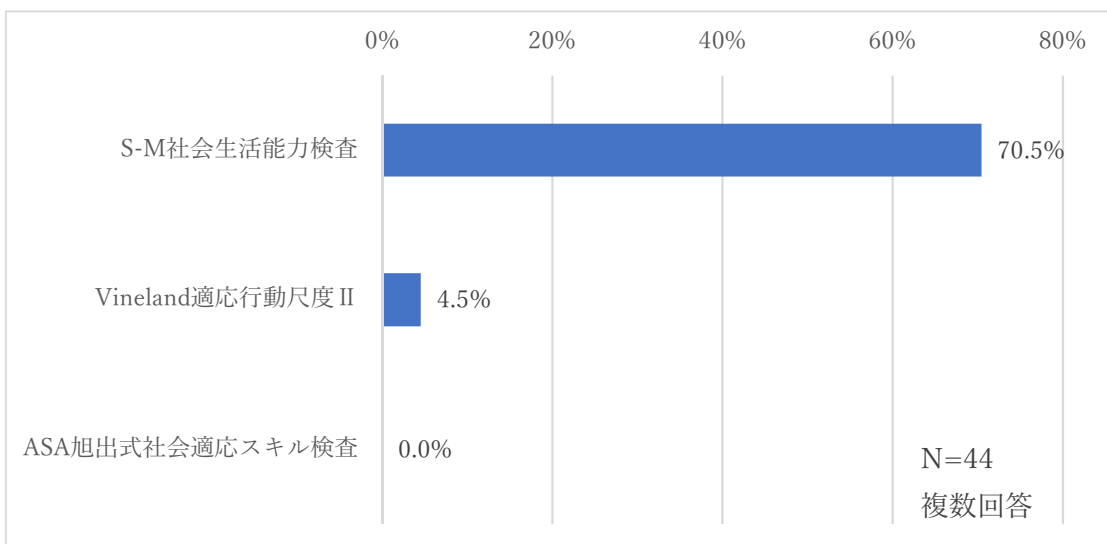
① 日常生活における困難と要支援度の評価



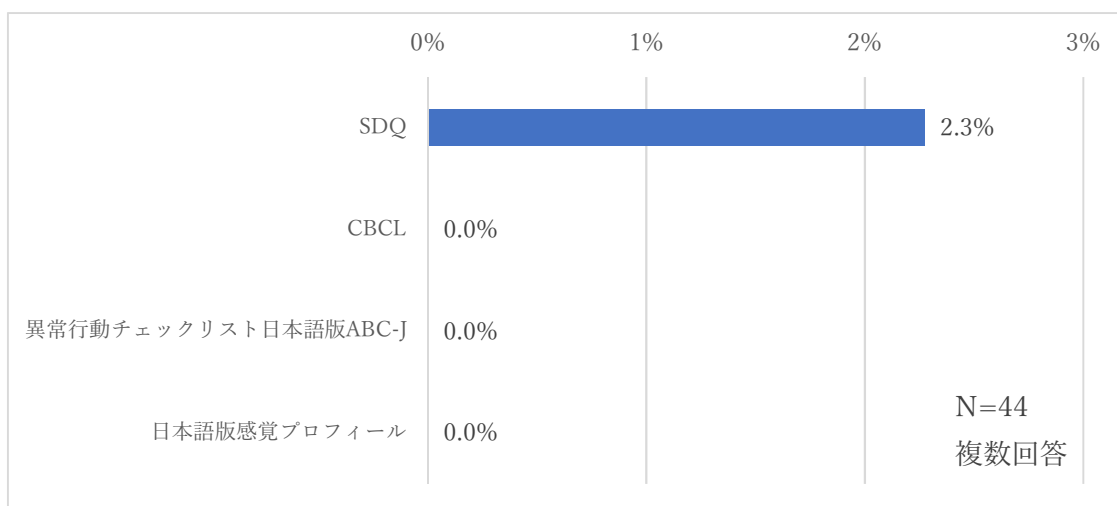
② 知能検査・発達検査



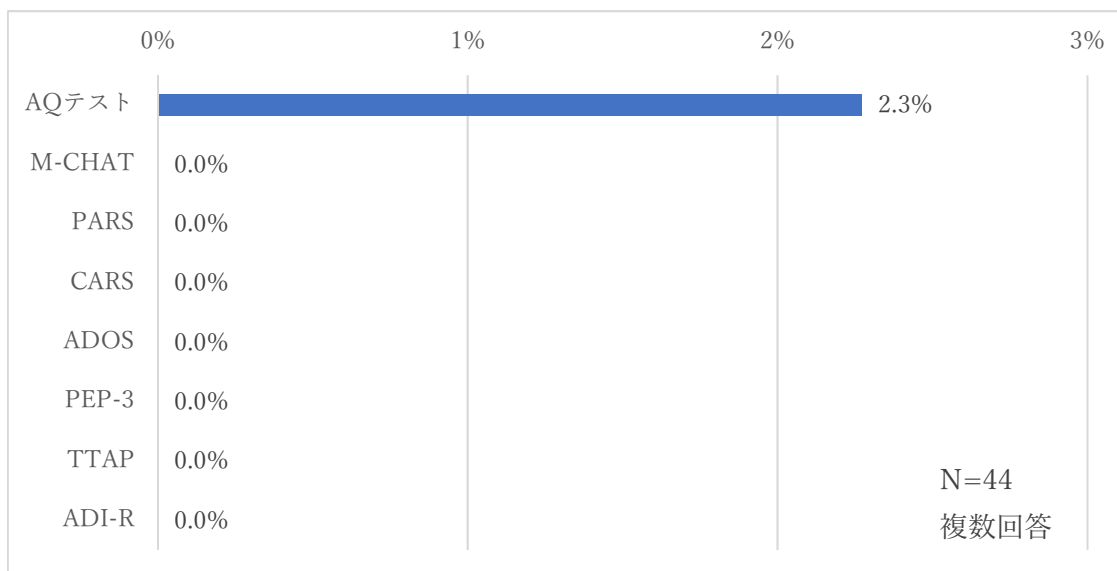
③ 適応行動（生活能力）のアセスメント



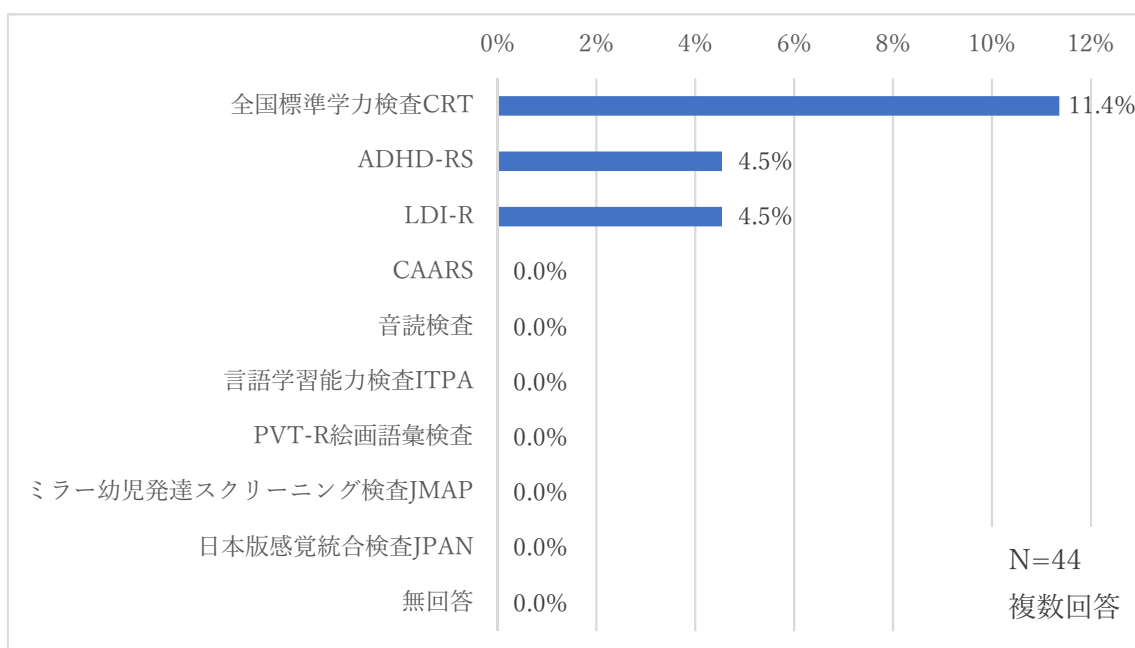
④ 情緒と行動のアセスメント



⑤ 自閉症スペクトラムのアセスメント



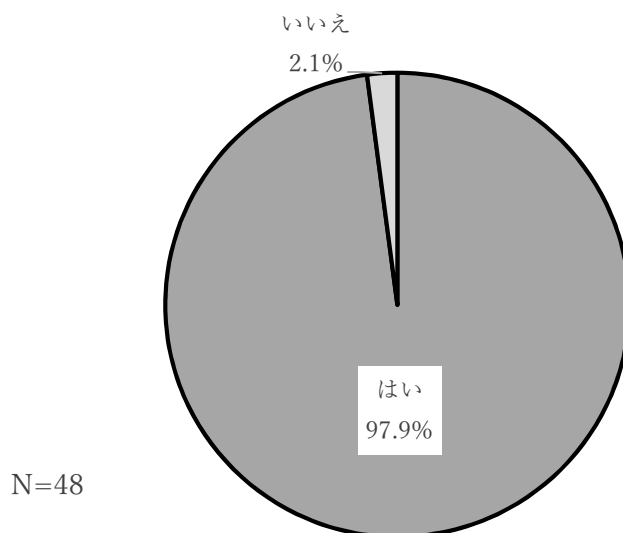
⑥ その他のアセスメント



【D 日常生活を支える「基本の手立て」について伺います (その② 日常生活について)】

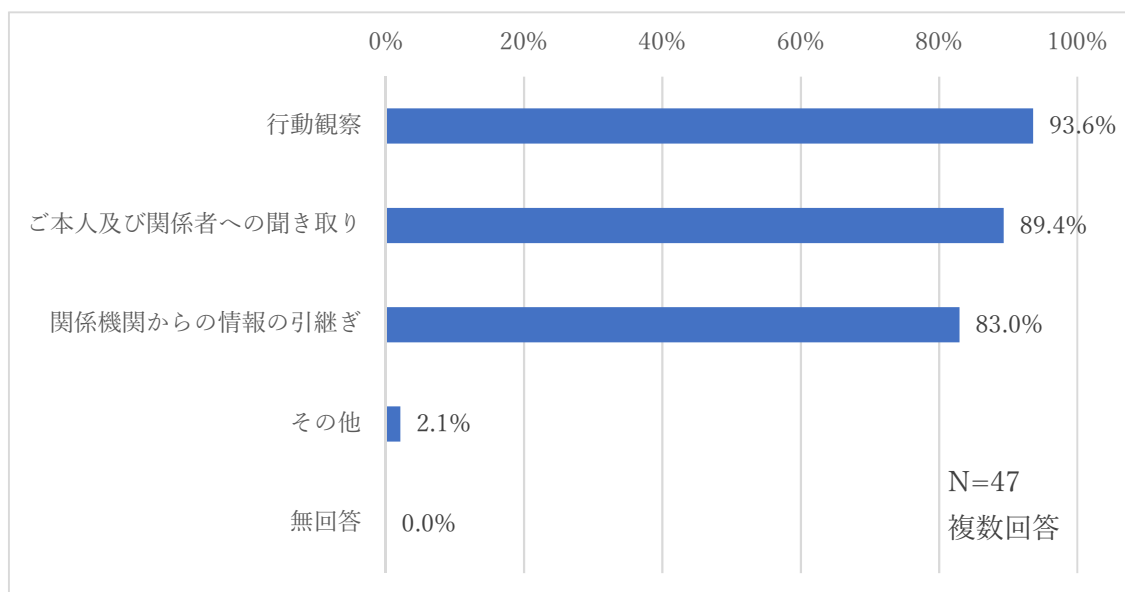
問6 貴校では、発達障害もしくはその可能性のある児童生徒が日常生活を送る上で、特別に配慮が必要な障害特性について、具体的に把握していますか。

障害特性を把握しているかについては、「はい」(97.9%)、「いいえ」(2.1%)となっている。



副問6-1 問6で「はい」と答えた方におたずねします。どのように障害特性を把握していますか。当てはまるものをすべて選んでください。

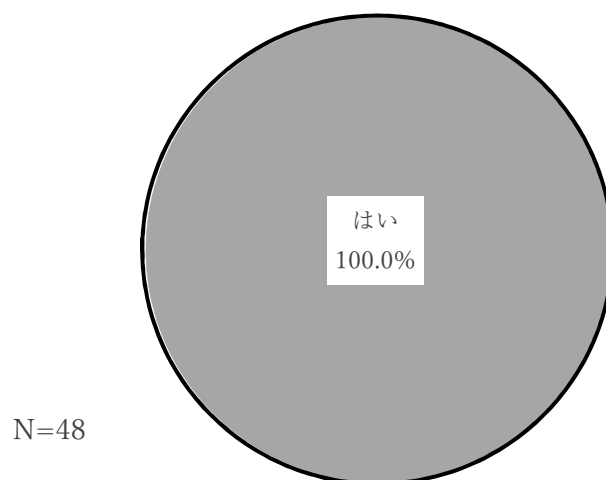
どのように障害特性を把握しているかについては、「行動観察」(93.6%)が最も多く、次いで「ご本人及び関係者への聞き取り」(89.4%)、「関係機関からの情報の引継ぎ」(83.0%)となっている。



(その他) 小学校との引き継ぎ

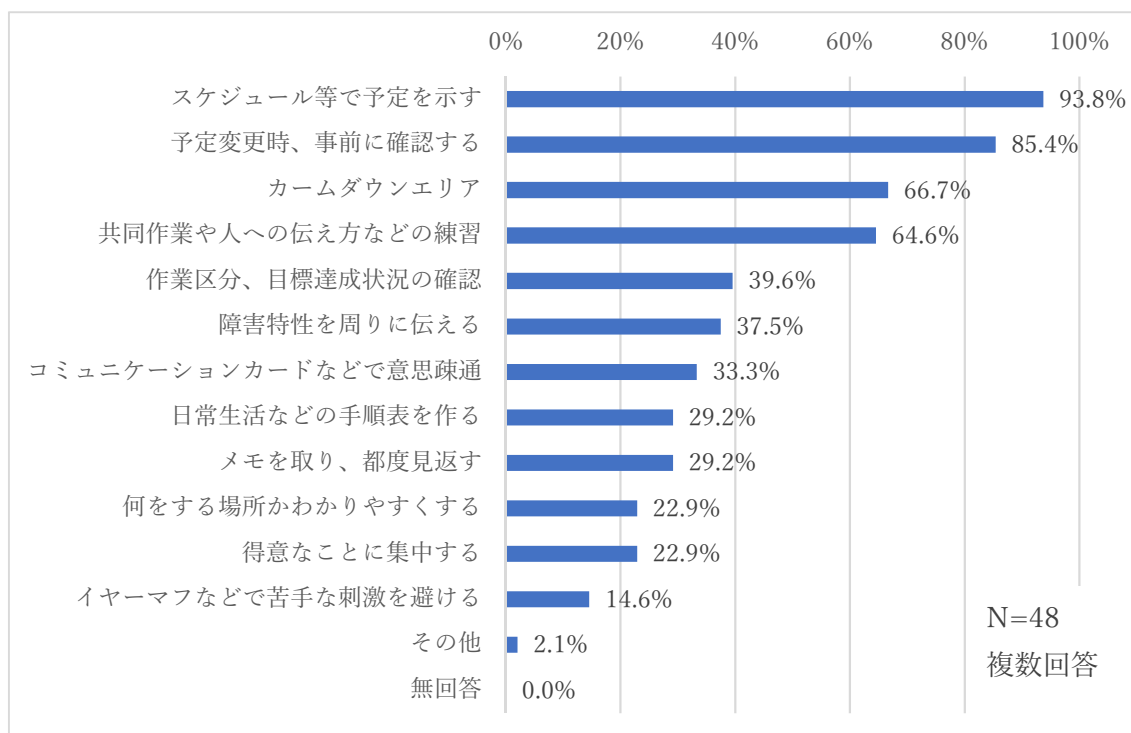
問7 貴校では、発達障害もしくはその可能性のある児童生徒が日常生活を送る上で、特別に配慮が必要な障害特性に対して、何らかの「手立て」を行っていますか。

何らかの「手立て」を行っているかについては、「はい」(100.0%)となっている。



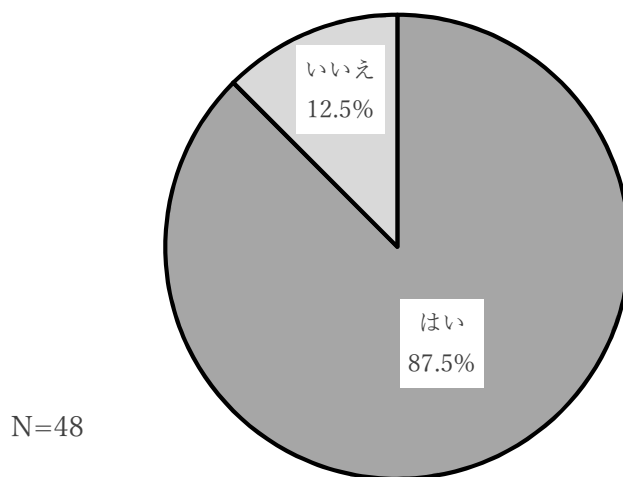
副問7-1 問7で「はい」と答えた方におたずねします。具体的にどのような「手立て」を講じていますか。該当するものをすべて選んでください。

どのような「手立て」を講じているかについては、「スケジュール等で予定を示す」(93.8%)が最も多く、次いで「予定変更時、事前に確認する」(85.4%)、「カームダウンエリア」(66.7%)となっている。



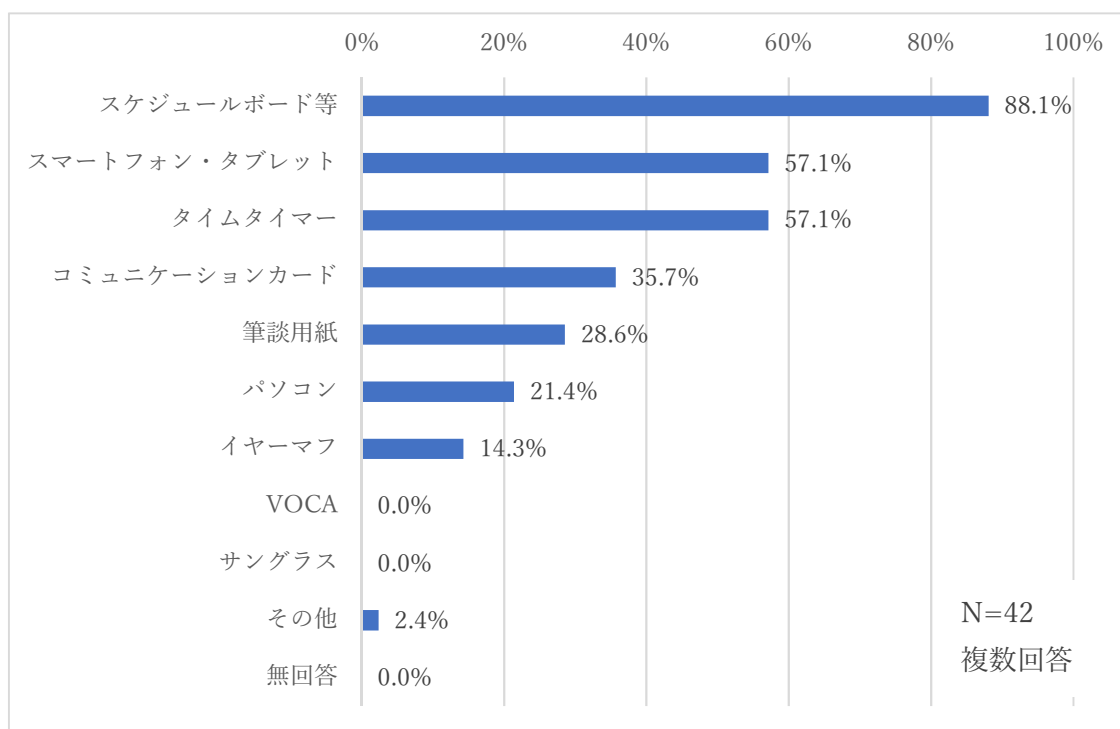
副問7-2 問7で「はい」と答えた方におたずねします。日常生活上の「手立て」を講じるにあたり、ツール（道具や用紙など）を使っていますか。

ツールを使っているかについては、「はい」(87.5%)、「いいえ」(12.5%)となっている。



副問7-2-1 副問7-2で「はい」と答えた方におたずねします。主にどのようなツールを使っていますか。当てはまるものをすべて選んでください。

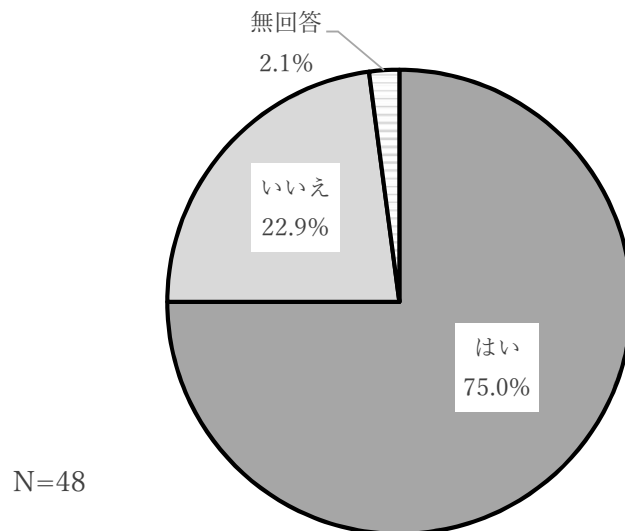
どのようなツールを使っているかについては、「スケジュールボード等」(88.1%)が最も多く、次いで「スマートフォン・タブレット」・「タイムタイマー」(57.1%)となっている。



(その他) タイムスケールの活用

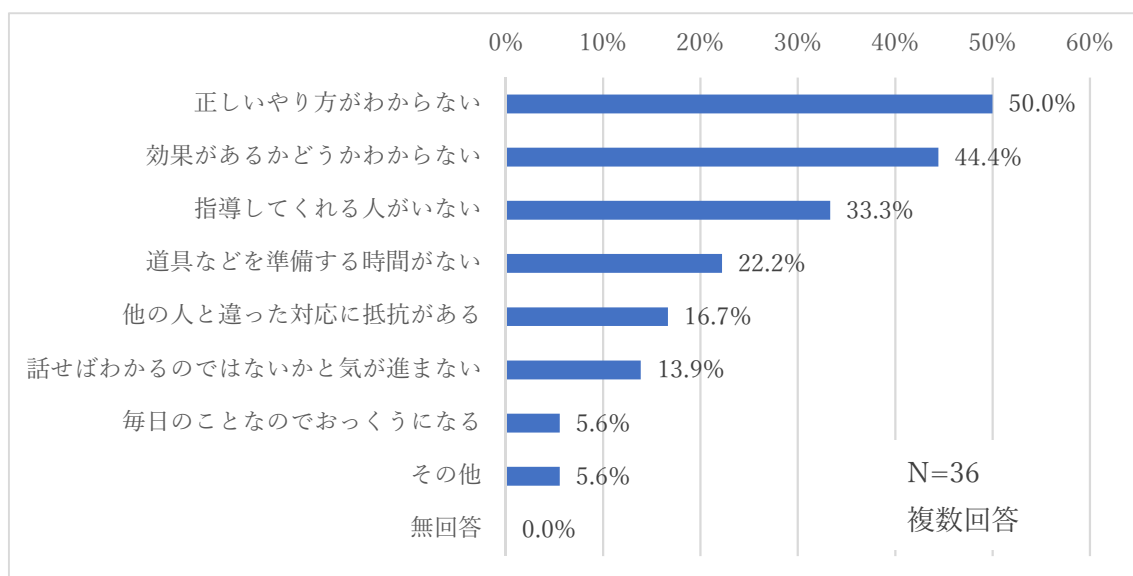
副問7-3 問7で「はい」と答えた方におたずねします。日常生活上の「手立て」を講じるうえで、難しいと感じることがありますか。

難しいと感じることがあるかについては、「はい」(75.0%)、「いいえ」(22.9%)となっている。



副問7-3-1 副問7-3で「はい」と答えた方におたずねします。どのようなことに難しさを感じますか。当てはまるものを3つまで選んでください。

どのようなことに難しさを感じるかについては、「正しいやり方がわからない」(50.0%)が最も多く、次いで「効果があるかどうかわからない」(44.4%)、「指導してくれる人がいない」(33.3%)となっている。



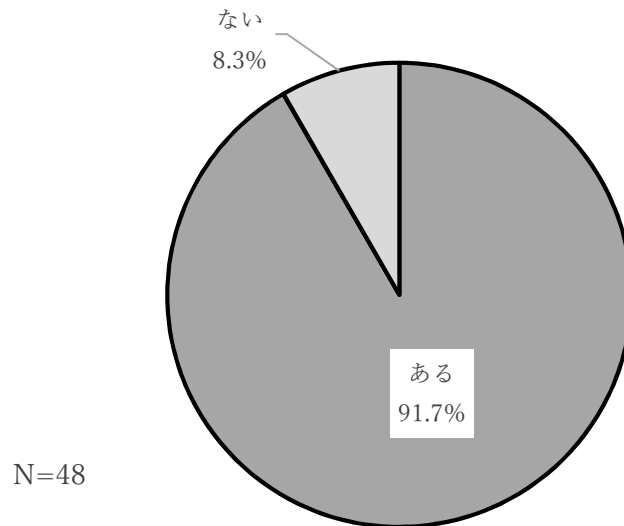
(その他)

- ・継続的に支援を行っているが、気分で出来たり出来なかったりするるので、支援方法を模索しながら行っている。
- ・個別の配慮に対する周りの生徒の理解や本人の障害受容。

【D 日常生活を支える「基本の手立て」について伺います（その③ 支援体制について）】

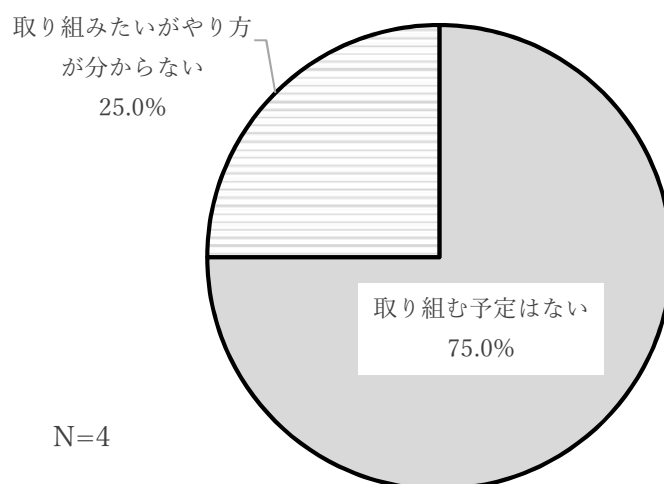
問8 貴校では、発達障害もしくはその可能性のある児童生徒が日常生活を送るうえで必要な「手立て」について、医療・福祉・教育・雇用(労働)など関係機関と連携して取り組んだことがありますか。

関係機関と連携して取り組んだことがあるかについては、「ある」(91.7%)、「ない」(8.3%)となっている。



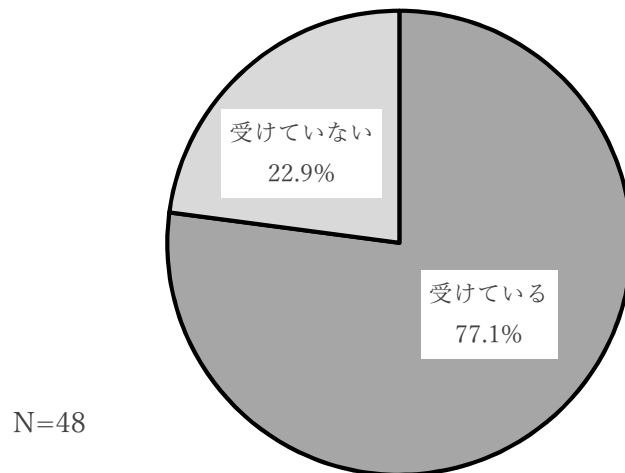
副問8-1 問8で「ない」と答えた方におたずねします。今後の予定について、当てはまるものをひとつ選んでください。

今後の予定については、「取り組む予定はない」(75.0%)、「取り組みたいがやり方が分からない」(25.0%)となっている。



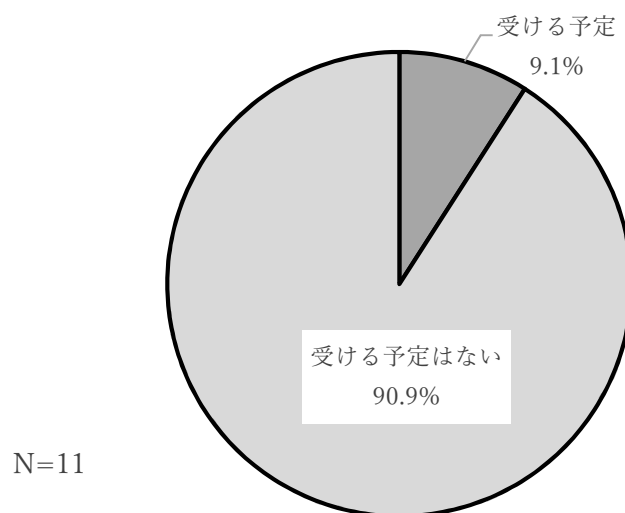
問9 専門機関（病院、発達障害者支援センターつばさ、障害者基幹相談支援センター、子ども総合センター等）から、助言や指導を受けていますか。

助言や指導を受けているかについては、「受けている」(77.1%)、「受けていない」(22.9%)となっている。



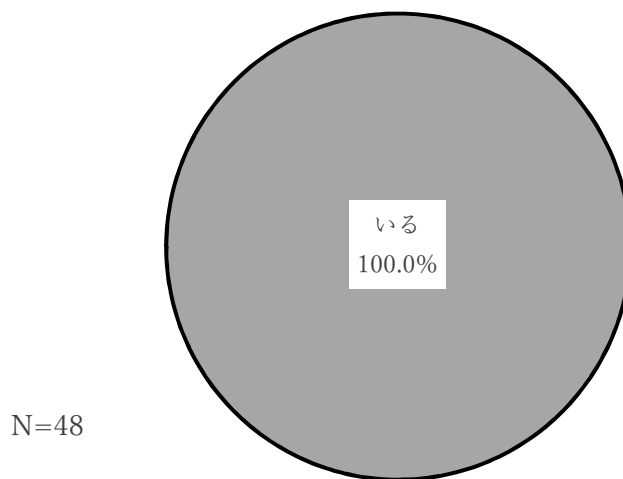
副問9-1 問9で「受けていない」と答えた方におたずねします。今後の予定について、当てはまるものをひとつ選んでください。

今後の予定については、「受ける予定はない」(90.9%)、「受ける予定」(9.1%)となっている。



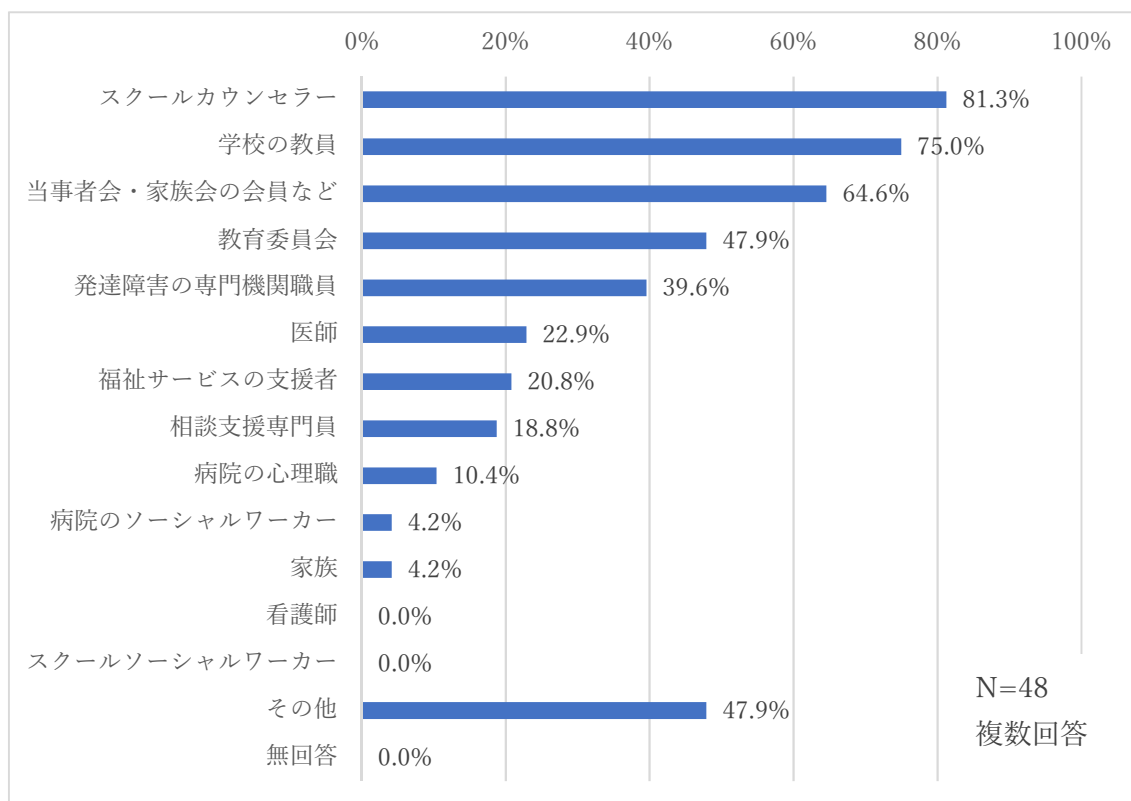
問10 発達障害もしくはその可能性のある児童生徒を支援する上で、困ったときに頼れる相談相手はいますか。

頼れる相談相手がいるかについては、「いる」(100.0%)となっている。



副問10-1 問10で「いる」と答えた方におたずねします。主な相談相手は誰ですか。該当するものをすべて選んでください。

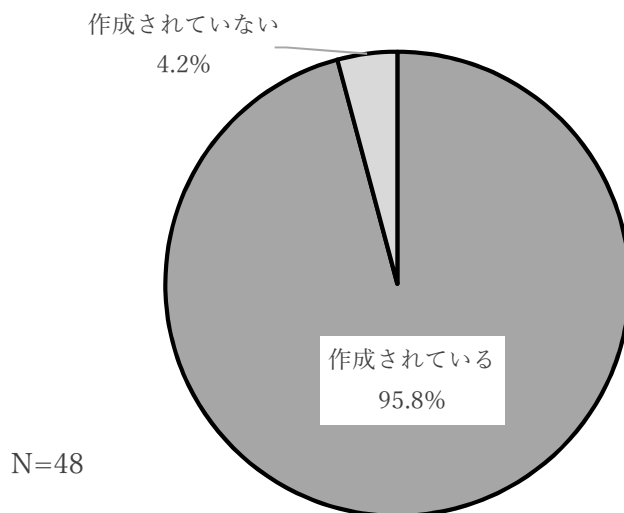
相談相手については、「スクールカウンセラー」(81.3%)が最も多く、次いで「学校の教員」(75.0%)、「当事者会・家族会の会員など」(64.6%)となっている。



(その他) 心療心理士

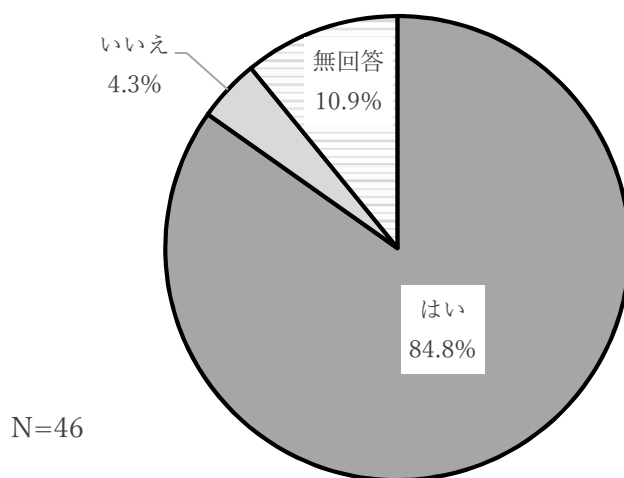
問 1 1 貴校では、発達障害もしくはその可能性のある児童生徒を支援するための個別の教育支援計画は作成されていますか。

教育支援計画を作成しているかについては、「作成されている」(95.8%)、「作成されていない」(4.2%)となっている。



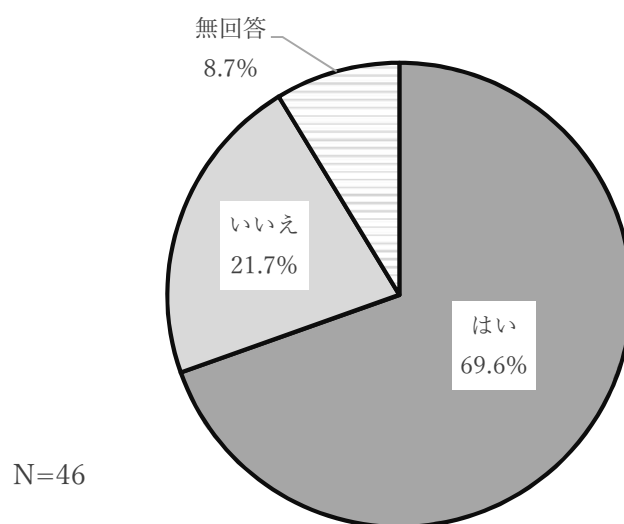
副問 1 1-1 問 1 1 で「作成されている」と答えた方におたずねします。作成された計画について、定期的に取り組みの結果を振り返り、その成果や課題を踏まえて内容の見直しが行なわれていますか。(PDCA サイクル)

成果や課題を踏まえて内容の見直しをしているかについては、「はい」(84.8%)、「いいえ」(4.3%)となっている。



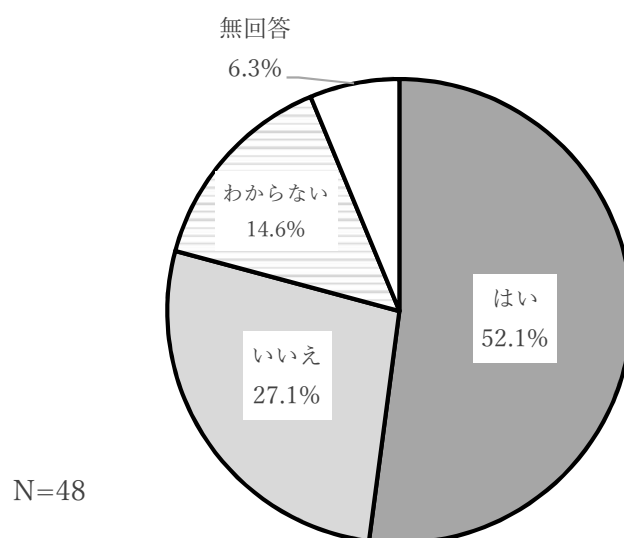
副問 1 1-2 問 1 1 で「作成されている」と答えた方におたずねします。ご本人（発達障害もしくはその可能性がある児童生徒）やそのご家族は、ご自身の支援計画の作成やその見直し（PDCA サイクル）作業に参加して、意見や要望を直接伝えてありますか。

意見や要望を直接伝えているかについては、「はい」（69.6%）、「いいえ」（21.7%）となっている。



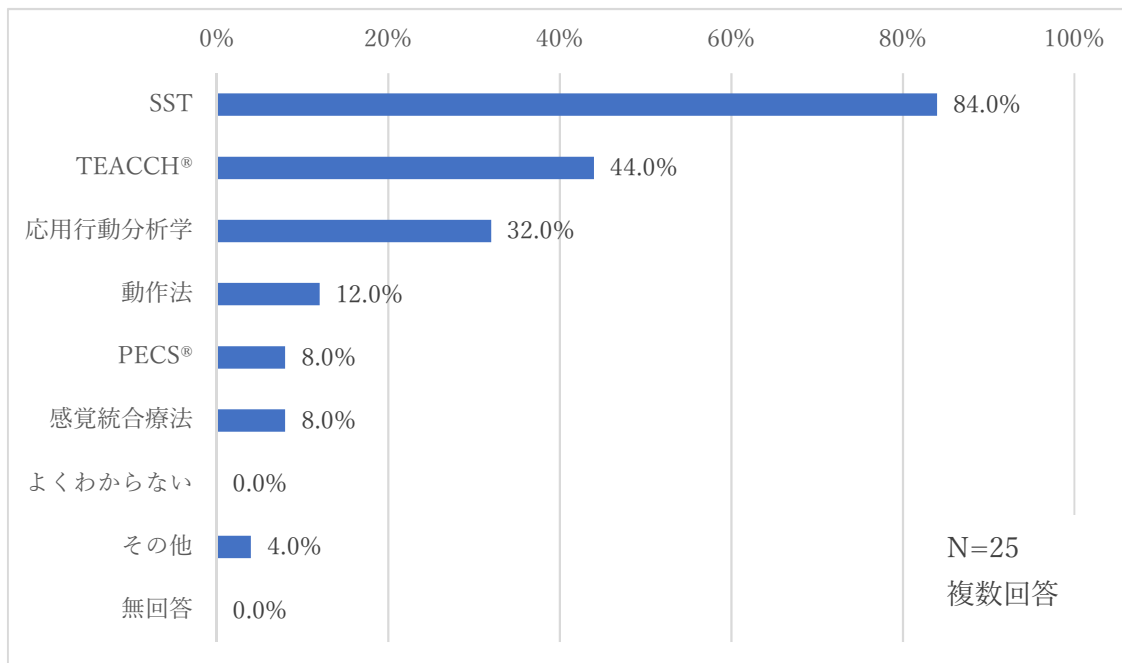
問 1 2 貴校では、発達障害もしくはその可能性のある児童生徒の支援に専門的な手法を取り入れていますか。

専門的な手法を取り入れているかについては、「はい」（52.1%）、「いいえ」（27.1%）、「わからない」（14.6%）となっている。



副問1 2-1 問1 2で「はい」と答えた方におたずねします。どのような手法を取り入れていますか。当てはまるものをすべて選んでください。

どのような手法を取り入れているかについては、「SST」(84.0%)が最も多く、次いで「TEACCH®」(44.0%)、「応用行動分析学」(32.0%)となっている。

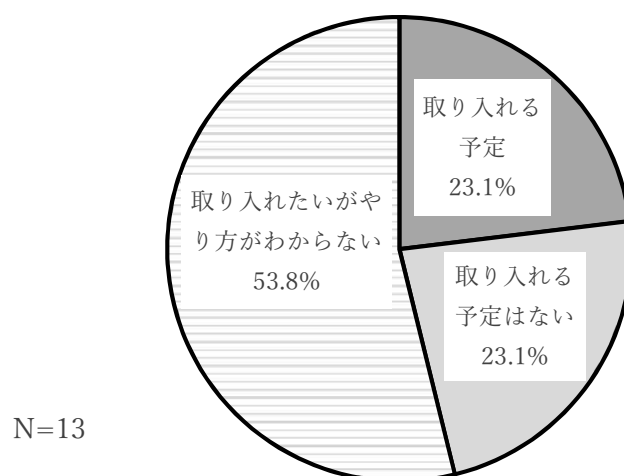


(その他)

- ・正式な手法通りではないと思いますが、選択肢の手法を部分的に取り組んでいます。

副問1 2-2 問1 2で「いいえ」と答えた方におたずねします。今後の予定について、当てはまるものをひとつ選んでください。

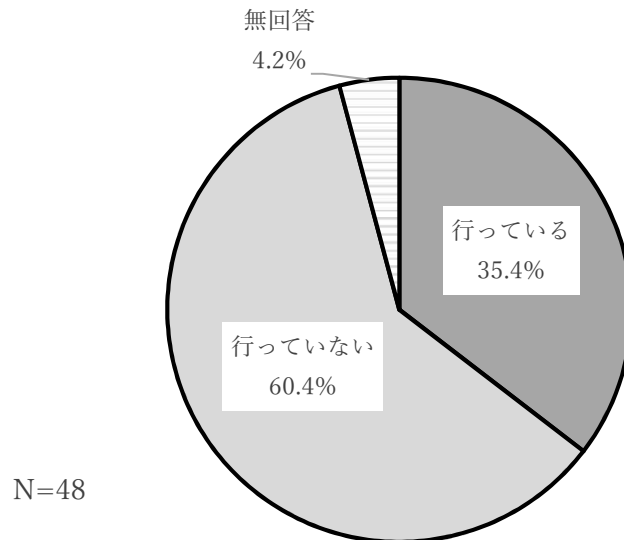
今後の予定については、「取り入れたいがやり方がわからない」(53.8%)、「取り入れる予定」・「取り入れる予定はない」(23.1%)となっている。



【E 強度行動障害のある児童生徒への支援について伺います（その① 日頃の対応について）】

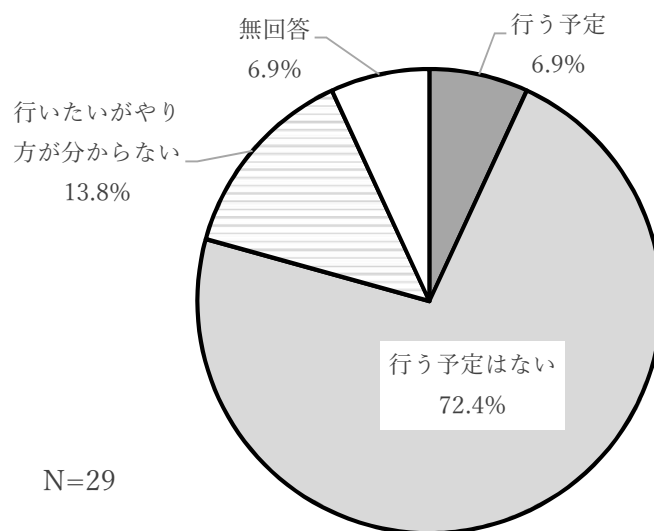
問13 貴校では、強度行動障害のある児童生徒への支援を行っていますか。

強度行動障害のある児童生徒への支援を行っているかについては、「行っている」(35.4%)、「行っていない」(60.4%)となっている。



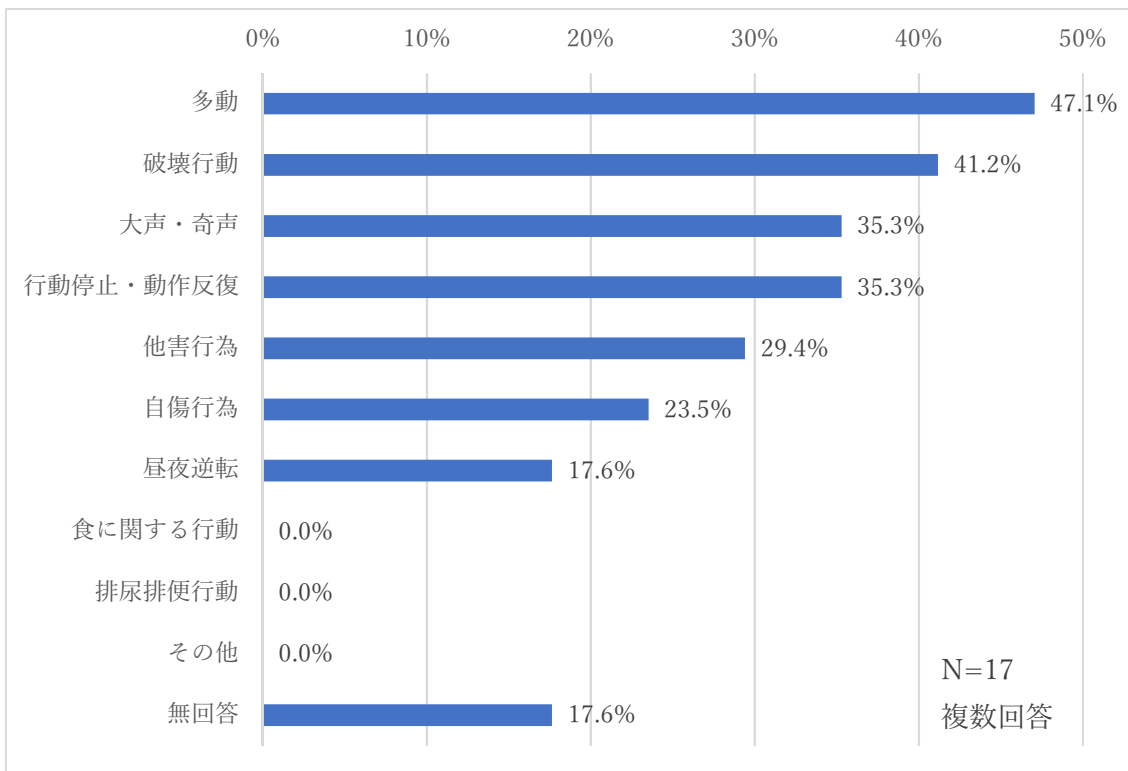
副問13-1 問13で「支援を行っていない」と答えた方におたずねします。今後、支援を行う予定はありますか。

今後、支援を行う予定があるかについては、「行わない予定」(72.4%)、「行いたい方が分からない」(13.8%)、「行わない予定」(6.9%)となっている。



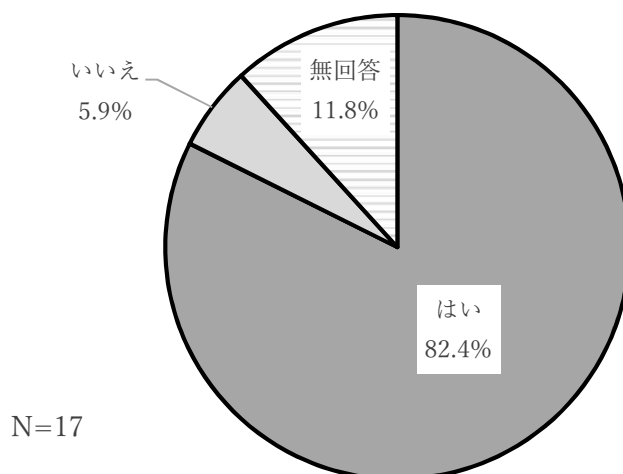
問14 貴校では、強度行動障害のある人を支援するにあたり、障害特性があるために起きる行動で困っていることは何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

行動で困っていることについては、「多動」(47.1%)が最も多く、次いで「破壊行動」(41.2%)、「大声・奇声」・「行動停止・動作反復」(35.3%)となっている。



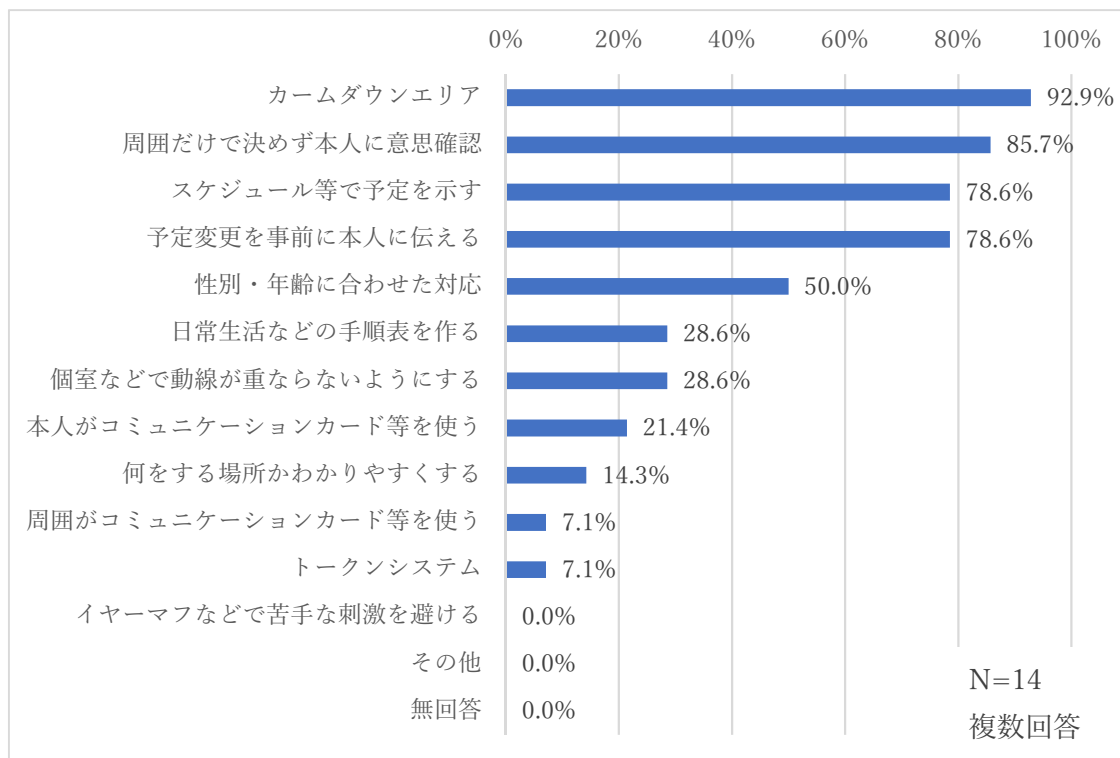
問15 貴校では、強度行動障害のある人の日常生活を支えるために、特別に配慮が必要な障害特性に対して何らかの「手立て」を行っていますか。

何らかの「手立て」を行っているかについては、「はい」(82.4%)、「いいえ」(5.9%)となっている。



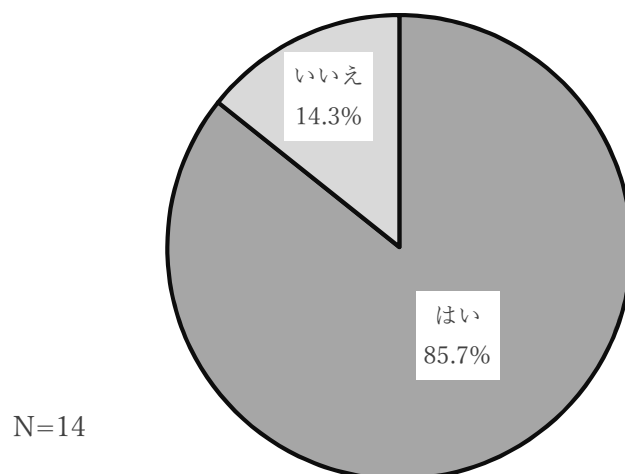
副問15-1 問15で「はい」と答えた方におたずねします。具体的にどのような「手立て」を講じていますか。該当するものをすべて選んでください。

どのような「手立て」を講じているかについては、「カームダウンエリア」(92.9%)が最も多く、次いで「周囲だけで決めず本人に意思確認」(85.7%)、「スケジュール等で予定を示す」・「予定変更を事前に本人に伝える」(78.6%)となっている。



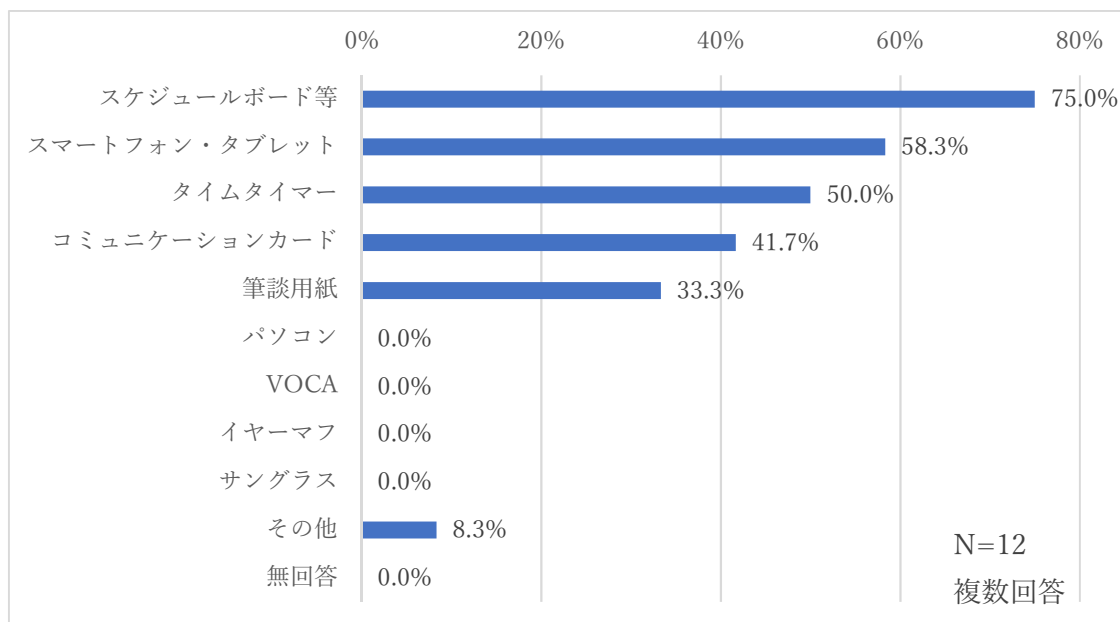
副問15-2 問15で「はい」と答えた方におたずねします。日常生活上の「手立て」を講じるにあたり、ツール（道具や用紙など）を使っていますか。

ツールを使っているかについては、「はい」(85.7%)、「いいえ」(14.3%)となっている。



副問15-2-1 副問15-2で「はい」と答えた方におたずねします。主にどのようなツールを使っていますか。ご本人と一緒に使うもの、またはご本人が自分で使うものについて、当てはまるものをすべて選んでください。

どのようなツールを使っているかについては、「スケジュールボード等」(75.0%)が最も多く、次いで「スマートフォン・タブレット」(58.3%)、「タイムタイマー」(50.0%)となっている。

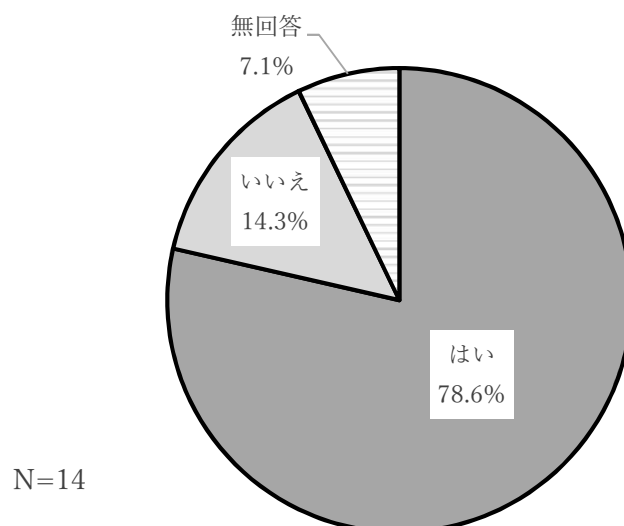


(その他)

- ・本人がパニックに陥った時、そっとしておくことを学級全員に周知徹底している。

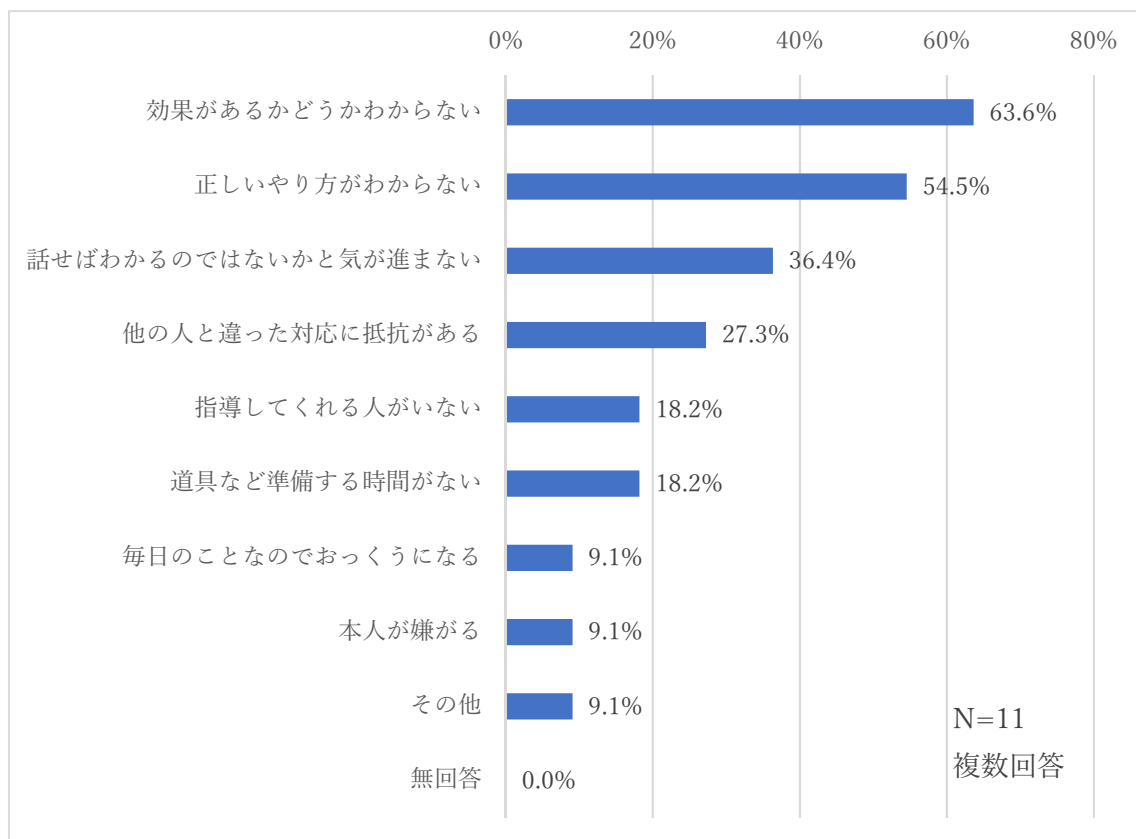
副問15-3 問15で「はい」と答えた方におたずねします。日常生活上の「手立て」を講じるうえで、難しいと感じることがありますか。

難しいと感じることがあるかについては、「はい」(78.6%)、「いいえ」(14.3%)となっている。



副問15-3-1 副問15-3で「はい」と答えた方におたずねします。どのようなことに難しさを感じますか。当てはまるものを3つまで選んでください。

どのようなことに難しさを感じるかについては、「効果があるかどうかわからない」(63.6%)が最も多く、次いで「正しいやり方がわからない」(54.5%)、「話せばわかるのではないかと気が進まない」(36.4%)となっている。

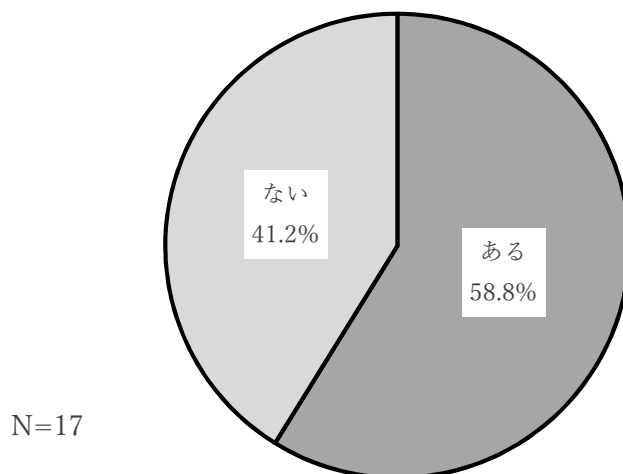


(その他) 教員側の人員不足

【E 強度行動障害のある人への支援について伺います (その② パニックへの対応について)】

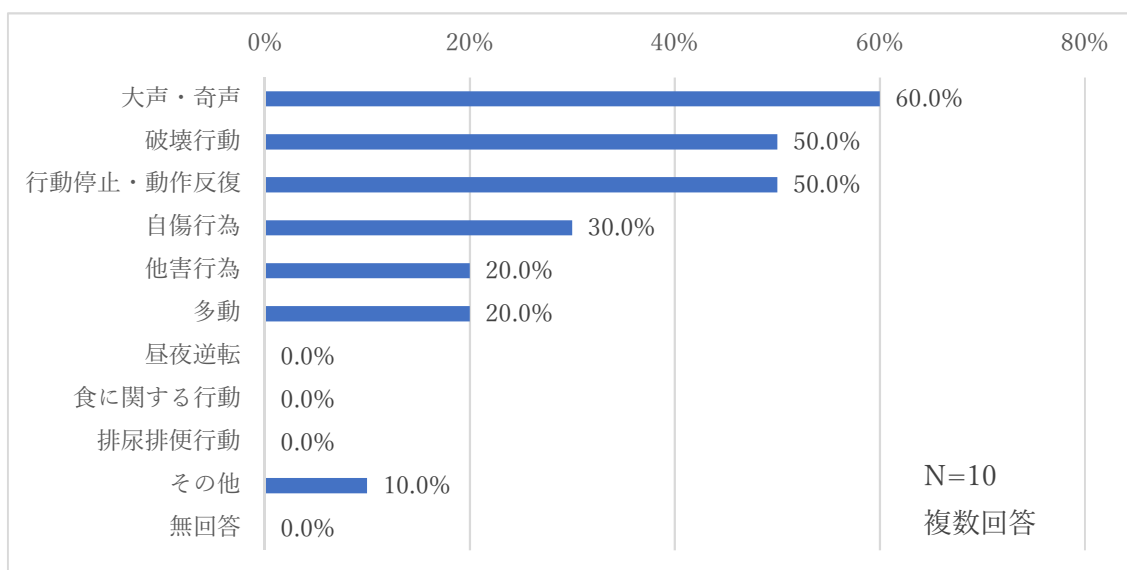
問16 強度行動障害のある人の状態が悪化して、危機的な状況(パニック)になったことを伺います。過去1年間に、ご本人が危機的な状況(パニック)になったことがありますか。

過去1年間に、危機的な状況(パニック)になったことがあるかについては、「ある」(58.8%)、「ない」(41.2%)となっている。



副問16-1 問16で「ある」と答えた方におたずねします。ご本人の状態が悪化したとき、具体的にどのような状態がより激しくなりましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

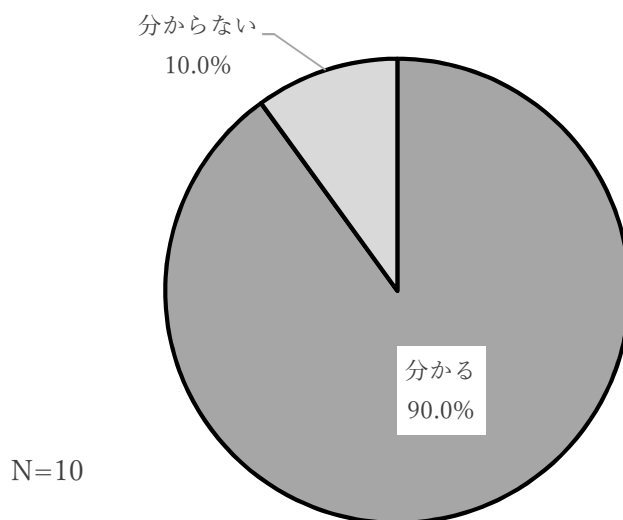
どのような状態がより激しくなったかについては、「大声・奇声」(60.0%)が最も多く、次いで「破壊行動」・「行動停止・動作反復」(50.0%)となっている。



(その他) 2時間程度の意識喪失

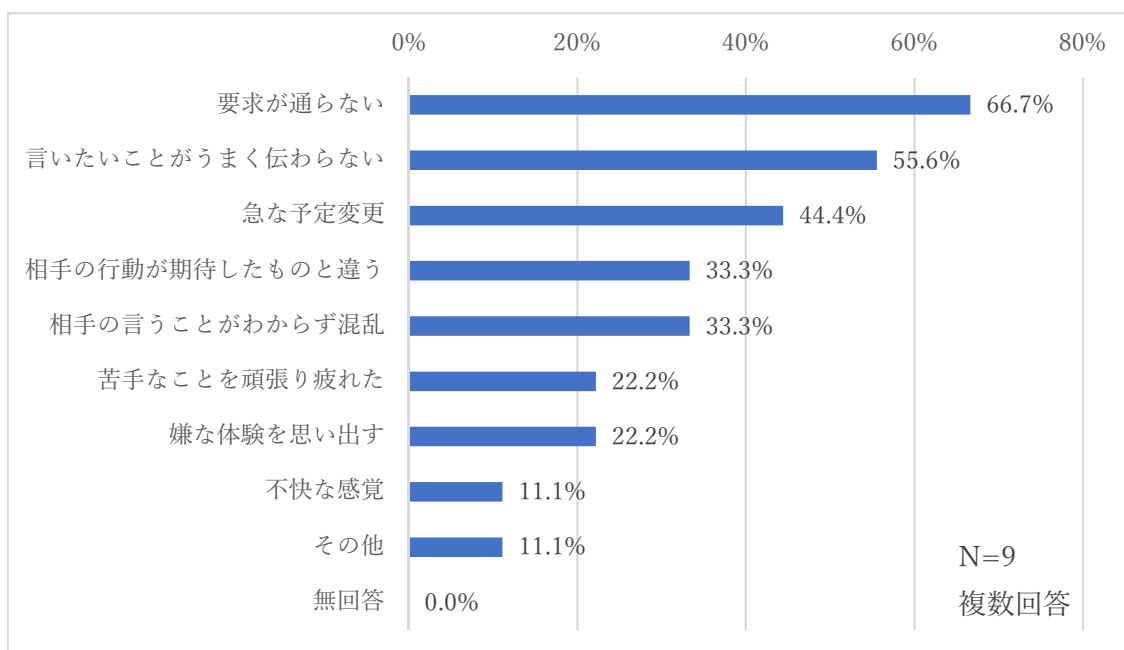
副問16-2 問16で「ある」と答えた方におたずねします。なぜそのような状態になったか、理由は分かりますか。

状態が悪化した理由については、「分かる」(90.0%)、「分からない」(10.0%)となっている。



副問16-2-1 副問16-2で「分かる」と答えた方におたずねします。主な理由は何ですか。該当するものを3つまで選んでください。

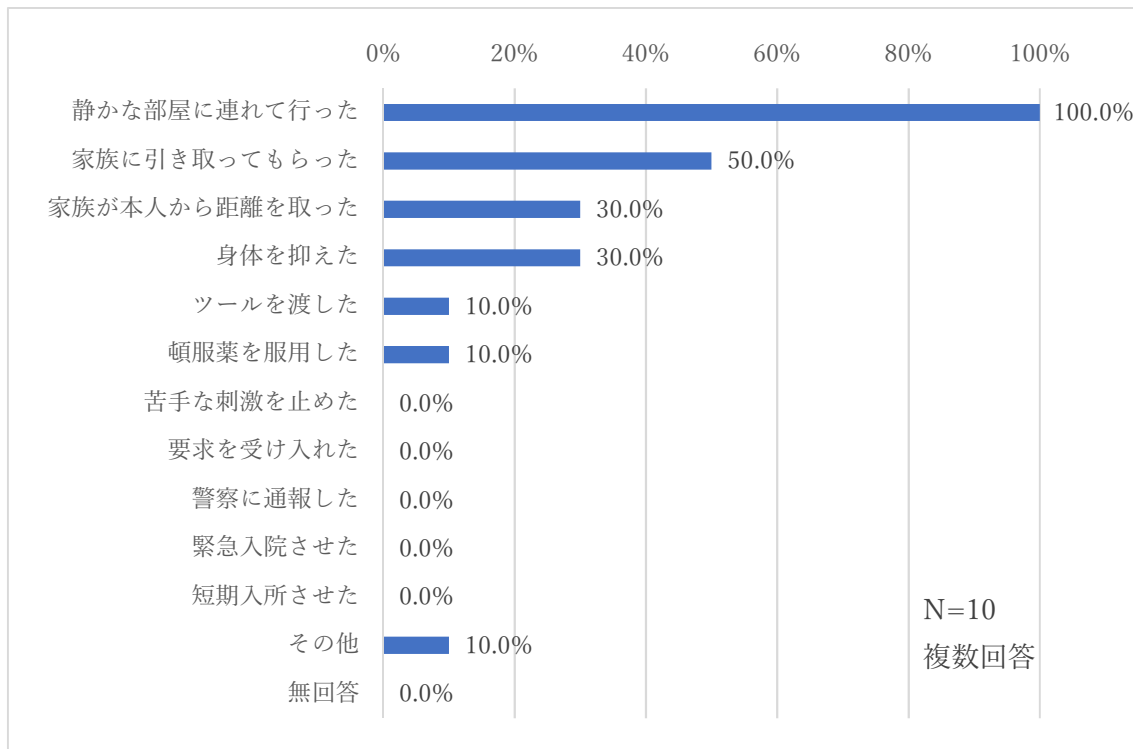
状態が悪化した主な理由については、「要求が通らない」(66.7%)が最も多く、次いで「言いたいことがうまく伝わらない」(55.6%)、「急な予定変更」(44.4%)となっている。



(その他) 移動教室で、普段と学習の場が違った。

副問16-3 問16で「ある」と答えた方におたずねします。ご本人の危機的な状況（パニック）は、どのようにして収まりましたか。該当するものを3つまで選んでください。

どのようにして収まったかについては、「静かな部屋に連れて行った」（100.0%）が最も多く、次いで「家族に引き取ってもらった」（50.0%）、「家族が本人から距離を取った」・「身体を抑えた」（30.0%）となっている。

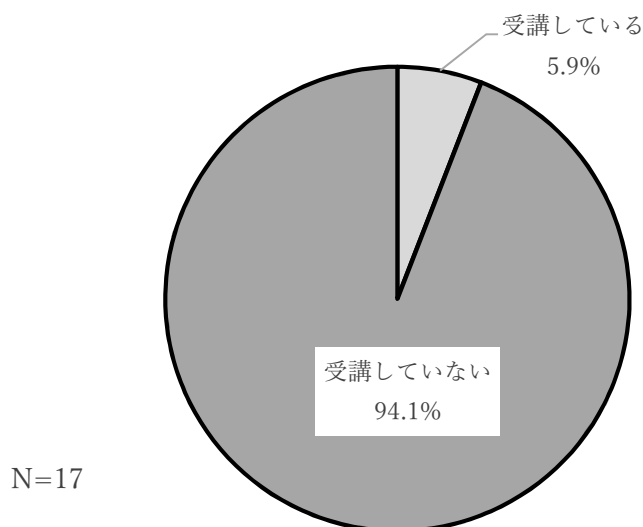


（その他）救急車で総合病院に搬送した。

【E 強度行動障害のある人への支援について伺います（その③ 人材育成について、今後の方向）】

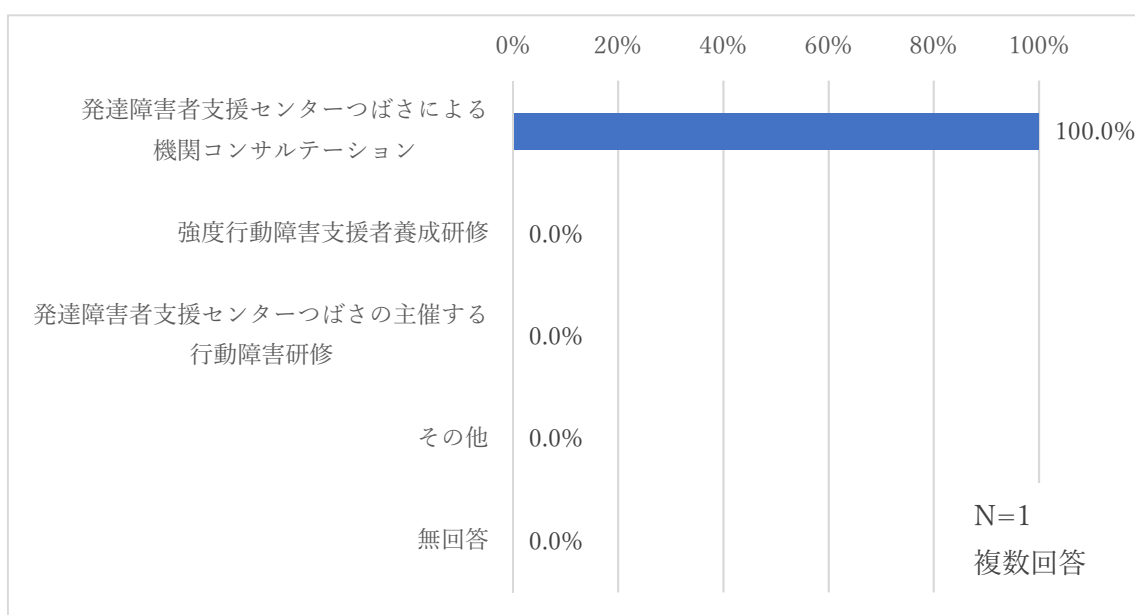
問17 貴校では、強度行動障害の支援に関する研修を受講していますか。

研修を受講しているかについては、「受講している」(5.9%)、「受講していない」(94.1%)となっている。



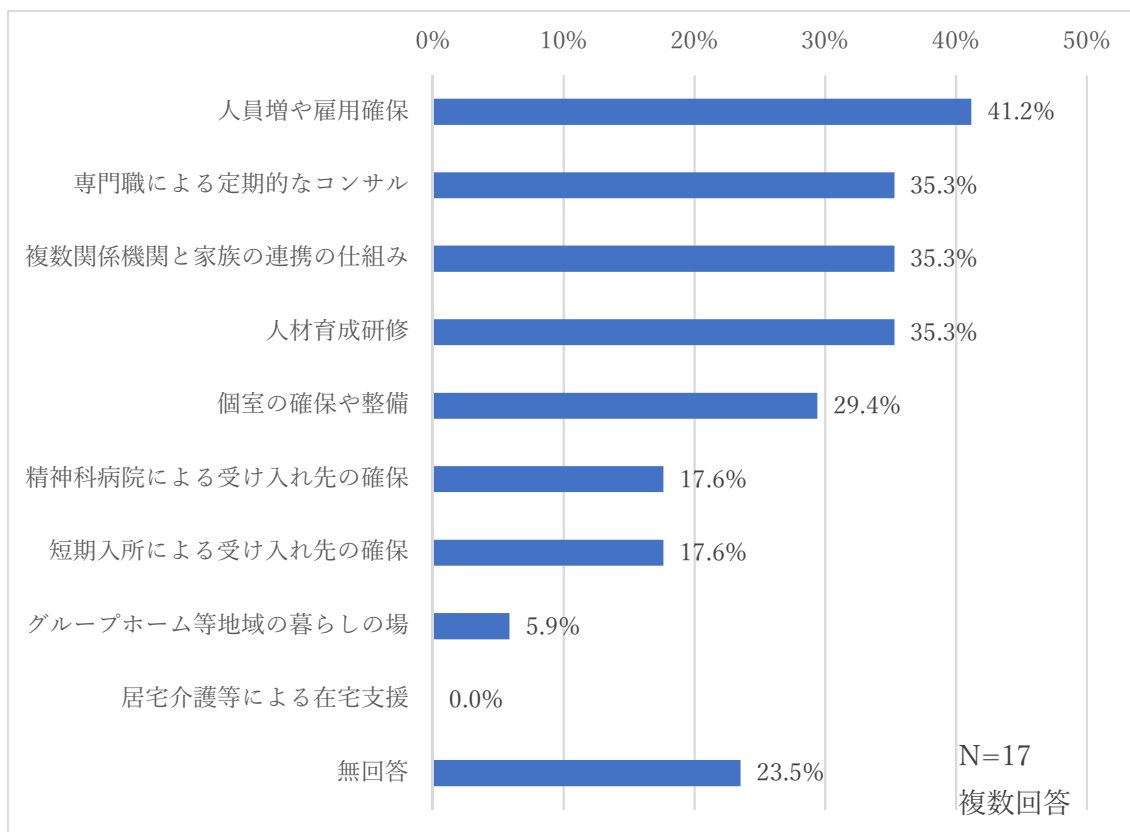
副問17-1 問17で「受講している」と答えた方におたずねします。どのような研修を受講されましたか。当てはまるものをすべて選んでください。

どのような研修を受講したかについては、「発達障害者支援センターつばさによる機関コンサルテーション」(100.0%)が最も多くなっている。



問18 強度行動障害のある人を支援するにあたり、どのような体制が必要だと考えますか。特に重要と思われるものを3つまで選んでください。

必要な体制については、「人員増や雇用確保」(41.2%)が最も多く、次いで「専門職による定期的なコンサル」・「複数関係機関と家族の連携の仕組み」・「人材育成研修」(35.3%)となっている。



【最後に発達障害者支援に関するご意見・ご要望などがあれば、ご自由にお書きください】

各学校に1名、特に特別支援学級の配置されていない学校には、専任で特別な支援を必要とする子どもたちに対応できる教員を配置してほしい。

就学相談会で特別支援学校（知的）措置が適切と判断されても、保護者の意向で特別支援学級に中重度の生徒が入ってきます。8人に一人の担任なので、支援に限界があります。支援学校と支援学級のあり方をしっかりと説明して、保護者の思いだけにとどまらず、将来自立するためにどの方向に進むべきかしっかりと面談をお願いしたいと思います。個に応じた授業には限界があるので、強度行動障害がある生徒が支援学級に籍を置く場合は、人員や部屋の確保まで考えていただきたいと思います。

本校では、専門知識を有する職員が担当しているとは限らないため、毎年手探り状態でスタートし、関係機関等の支援のもとなんとか乗り切っているのが現状です。ハード面がより充実すれば、より一層個に応じた支援ができるのではないかと思います。今後ともご指導・ご支援の程よろしく願いいたします。

発達障害者支援については、家族を含む周りの人が知識を得て理解することが大切だと思います。また、関係機関との連携をとりながら、より多くの人を支えていく体制を整えることが必要だと思います。

管理職のリーダーシップの下、職員一人一人が自分意識をもつことが大切だと考える。また、職場内外の研修を通して、具体的な指導や支援に関する知識を常に更新していく必要があると思う。